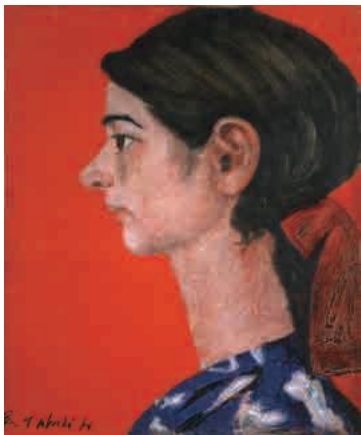


洲之内 徹 (1913～1987 年)

愛媛県松山市生まれ。東京美術学校在籍中にマルクス主義に傾倒し、19歳で検挙される。小説家として、横光利一賞候補2回、芥川賞候補に3回挙がった。1961年、「現代画廊」の経営を田村泰次郎から引き継ぐ。画廊主として、無名であつても気に入れば個展の場を提供、佐藤哲三を初めとする多くの画家を発掘した。美術エッセイストとしても名高く「絵の中の散歩」「気まぐれ美術館」などを著す。洲之内の没後、その愛蔵した絵画全点が宮城県美術館に収蔵された。

1987年、74歳で逝去。



林 武 星女嬢

大川栄二 (1924～2008 年)

群馬県桐生市生まれ。実業家。三井物産株式会社勤務を経て急成長期のダイエーの副社長、マルエツの社長に。引退後1988年に故郷の桐生市に「公益財団法人大川美術館」を設立。理事長兼館長に就任。松本俊介、野田英夫を中心に、二人と縁深い鬯光、麻生三郎、難波田龍起、国吉康雄などの若い時期の作品のほか、ピカソ、ルオー、ベン・シャーンなどの西洋画の名品も多い。著書に「美の経済学」「美のジャーナル」「美術館の窓から」など。

2008年、84歳で逝去。



麻生三郎 裸

梅野 隆 (1926～2011 年)

福岡県八女市生まれ。父・満雄は青木繁の親友であり青木作品の散逸を防いだことで名高い。父親の死後、コレクターとして美術品蒐集の道へ。才あれど正当な評価を受けることなく埋没した画家たちの再評価を求める活動に没入。ブリヂストンの役員を60歳で退任、東京の京橋に「美術研究 藝林」を開廊。やがて活動が注目され、退任後、長野県北御牧村（現・東御市）に設立された梅野記念絵画館の館長として迎えられる。コレクションの中から青木繁のデッサンを含む430点を寄贈。2011年、85歳で逝去。



間部時雄 紅葉



鳥海青児 うずら



牧野義雄 霧の中のクロムウエル



菅野圭介 哲学の橋